

前書き

このオーナーズマニュアルには、KYMCO XCITING 400i スクーターの安全、操作、メンテナンスに関する重要事項が掲載されています。スクーターを運転する際には事前に、本マニュアルにしっかり目を通し、内容を十分に理解しておく必要があります。安全を確保するために、本オーナーズマニュアルに掲載されているすべての警告事項と、スクーターに貼付されているラベルの表示内容を理解し、従ってください。このオーナーズマニュアルを車両の不変部分と見なし、常にスクーターと共に保管してください。オンロード使用のみ。このスクーターはオンロード(道路上)での使用を想定して設計されています。

本マニュアルでは 特に重要な情報を以下の各アイコンと表示で強調しています。



▲ WARNING

三角形の中にエクスクラメーションマークが表示されている安全警報マークは「注意！」「危険！」などを意味します。

警告マークの指示内容に従わなかった場合、運転者、同乗者、通行人、スクーターの検査や修理の担当者の重傷または死亡を招く恐れがあります。

▲ CAUTION

注意マークはスクーターの破損を防ぐための特別な注意事項を示しています。

■ 注記

注記マークは手順に関する重要事項や操作を明確にするための情報を示しています。

前書き	1
セクション1 - 安全情報と今後の情報	3-6
スクーターの安全	4
保護装具	5
付属品と改造	6
セクション2 - 制御装置とその機能	7-31
部品と制御装置の位置	7 - 10
イグニッションスイッチ	11-12
安全シャッター	13
計器類	14
多機能表示	15-18
ABSの情報	19
デジタル時計	20
右ハンドルバースイッチ	21-22
左ハンドルバースイッチ	23
フロントブレーキレバー	24
リアブレーキレバー	24
ブレーキレバーアジャスター	25
燃料量の点検／補給	26
ヘルメットホルダー	27
センターコンパートメント	27
センターコンパートメントLED	28
携帯電話用ソケット	28
サスペンション	29
パーキングブレーキ	30
サイドスタンド	31
セクション3 - 操作	32-38
エンジンの始動	32-33

イグニッションカットオフ	34
運転	34-36
駐車	37
慣らし運転に関する推奨事項	38
セクション4 - メンテナンス	39-62
乗車前点検	40
メンテナンスの重要性	41
メンテナンススケジュール	42
メンテナンススケジュールの注記	42-44
エンジンオイル	45-47
トランスミッション液の交換	48
エアクリナーフィルターのエレメント	49
スロットル動作性	49
スパークプラグ	50
冷却水の残量の点検	51
冷却水の交換	52
ブレーキ液	53
ブレーキパッド	54
バッテリー	55
ヒューズ	56
タイヤ	57-58
ウインドシールドの掃除	59
クランクケース通気管の排水	60
保管に関するガイド	61-62
メンテナンス記録	63-65
セクション5 - 仕様	66-67

セクション1 - 安全情報と今後の情報

- この度は、KYMCO **XCITING 400i** スクーターをお買い上げいただきありがとうございます。そして、KYMCOライディングファミリーへようこそ。運転する前にこのオーナーズマニュアルをよく読み、スクーターの各制御装置の適切な操作方法、それらの各機能、能力、制限事項に熟知しておいてください。
- 問題なく長くスクーターをお使いいただくために、本マニュアルに説明されている適切な手入れとメンテナンスを実施してください。
- 交換用の部品や付属品については、常にKYMCO純正品を使用してください。純正品はご購入いただいた車両のために特別に設計され、KYMCOの要求基準を満たすように製造されています。
- このオーナーズマニュアルを常にスクーターに入れておき、必要な情報をいつでも確認できるようにしておきましょう。このオーナーズマニュアルを車両の不変部分と見なし、スクーターを売る場合にもスクーターに付属しておく必要があります。
- 本マニュアルに掲載されているすべての情報、図、写真、仕様は、本マニュアル発行時に入手可能な状態であった最新製品情報に基づいています。本マニュアルには、内容の改正や変更などにより、ご購入された車両とは多少異なる情報が掲載されている場合があります。KYMCOには、通知することなく、かつ義務を負うことなく、いつでも製品や書類に変更を加える権限があります。

セクション1 - 安全情報と今後の情報

スクーターの安全

重要安全情報

お客様には、ご購入されたスクーターを長年お楽しみいただくために、ご自身の安全に責任を持ち、路上で遭遇する可能性のある事柄を把握しておくことをお勧めいたします。運転時には、ご自身を保護するためにできることがたくさんあります。本マニュアルには役立つ推奨事項が満載されております。以下は、安全に関する非常に重要なヒントです。

ヘルメットを着用する

スクーター安全装具について、まずは高品質ヘルメットからご説明いたします。衝突時に被る可能性のある重傷の1つは頭部外傷です。必ず適切な認定を受けたヘルメットを着用してください。目にも適切な保護具を着用した方がよいでしょう。

目立つ姿で

他の運転者から目視で確認されるように、運転時の服装は反射しやすい明るい色のものを選んで目立つ格好をし、右折・左折や車線変更するときには事前にウinkerを点灯させ、他者に自身の存在を知らせる時にはクラクションを鳴らして下さい。

限界を知っておく

ご自身の技術的な限界を常に意識して運転してください。技術の限界を把握してその範囲内で運転することは、事故の防止につながります。

スクーターの状態を安全に保つ

安全運転のためには、運転時には毎回事前にスクーターの状態を点検し、推奨されるメンテナンス作業をすべて実施することが大切です。荷重限界を超えないようにし、付属品はこのスクーターに対してKYMCOが認定しているもののみを使用してください。

運転前のスクーターの点検

運転者と同乗者の安全を確保するために、運転前に必ず全体的な安全点検を行ってください。

悪天候下での特別な配慮

悪天候、特に雨天下での運転には特に注意が必要です。雨の日にはブレーキ距離を2倍にしましょう。路上の塗装面、マンホールのふた、つるつるした所などは特に滑りやすくなっています。線路、金属製の格子や橋などを渡る時には特に注意してください。道路の状態が良くないと思った時はスピードを落としましょう。

改造

スクーターを改造したり、搭載されている装置類を取り外したりすると、車両の安全性が損なわれたり法律に抵触したりする可能性があります。お住まいの地域の適用される装備規制をすべて遵守してください。

セクション1 - 安全情報と今後の情報

保護装具

スクーターに乗る時には常に安全を考慮して、オートバイまたはスクーター用の公認ヘルメット、目の保護具、ブーツ、手袋、長ズボン、長袖のシャツまたはジャケットを着用しましょう。

ヘルメットおよび保護具

ヘルメットは、頭部外傷防止に最適で最も重要な装具です。ヘルメットは頭に合ったものを着用し、しっかりと固定してください。目を保護し視界を確保するために、フェイスシールドやゴーグルも常に着用しましょう。

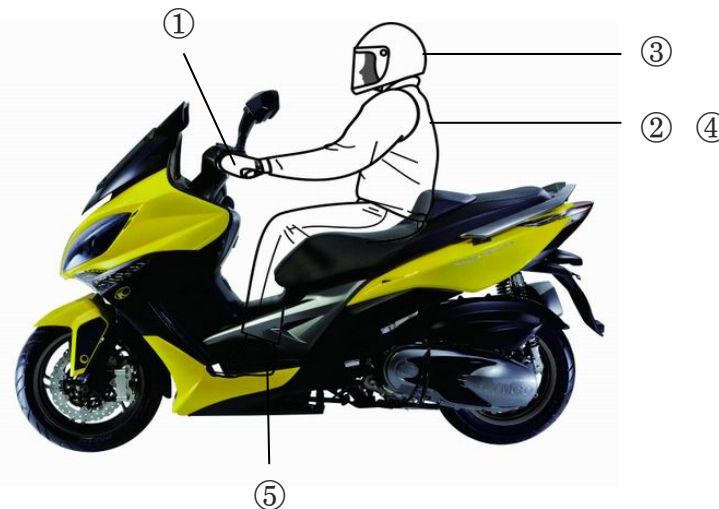
追加の装具

ヘルメットと目の保護具に加えて、以下の使用もお勧めします。

- 靴底に滑り止めがついている頑丈なブーツ。かかとから足先までを保護します。
- 革手袋。手を冷やさず、水ぶくれ、切り傷、やけど、打撲を防ぎます。
- オートバイまたはスクーター用のライダーズーツやジャケット。保護だけでなく快適さも考慮してデザインされています。明るい色で反射性の高い衣服。路上で姿を目立たせることができます。緩い衣服は、スクーターの一部に引っかかる可能性があるのを着用しないようにしましょう。

⚠ WARNING

ヘルメットを着用しないと、衝突時に重傷または死亡に至る可能性が高くなります。



- ①手袋を着用
- ②衣服はサイズの合ったものを(きつ過ぎず緩すぎず)
- ③ヘルメットは必ず着用。目の保護具も着用した方がよい
- ④明るい色で反射性の高い衣服を着用
- ⑤靴はサイズが合っていてヒールが低く、できれば足首を保護するものを着用

⚠ WARNING

運転者と同乗者はサイズの合ったオートバイ用認定ヘルメットを必ず着用してください。目の保護具やその他の保護装具も着用した方がよいでしょう。

セクション1 - 安全情報と今後の情報

付属品と改造

KYMCOのスクーターには、所有者が利用できるさまざまな付属品があります。KYMCOは、購入したい付属品の品質や適切性を直接管理できません。不適切な付属品をスクーターに取り付けると、運転状態の安全性が損なわれる可能性があります。市販されている付属品や入手可能な付属品の組み合わせをKYMCOがすべてテストすることは不可能ですが、最寄りのKYMCOディーラーが、高品質の付属品を選択して正しく取り付けるお手伝いをさせていただきます

付属品の選択とスクーターへの取り付けには細心の注意を払ってください。

改造禁止

KYMCOでは、スクーターの搭載品を取り外したり、何らかの方法でスクーターを改造したりしないように強く忠告させていただいております。スクーターの設計や運転が変化してしまう恐れがあります。

WARNING

不適切な付属品や改造は、スクーターの安全を損ない、事故を招く可能性があります。
付属品の不適切な取り付けや使用によりスクーターを改造しないようにしてください。この車両に追加するあらゆる部品と付属品については、KYMCO純正品、またはこのスクーターへの使用を目的として設計されている同等品を使用し、指示どおりに取り付けて使用するようにしてください。ご質問がございましたら、KYMCO正規ディーラーにお問い合わせください。

セクション2 - 制御装置とその機能

部品と制御装置の位置

- ① リアブレーキレバー
- ② ヘッドライト
- ③ 左ウィンカー
- ④ サイドスタンド
- ⑤ シート
- ⑥ エアフィルター
- ⑦ テールランプおよび停止ランプ
- ⑧ バッテリー



■ 注記：本マニュアルの図がお持ちのスクーターの外観と多少異なる場合があります。

セクション2 - 制御装置とその機能

- ① マフラー
- ② オイル注入口キャップ／オイルゲージ
- ③ 燃料注入口キャップ
- ④ 後席用フットベグ
- ⑤ 右ウィンカー



■ 注記：本マニュアルの図がお持ちのスクーターの外観と多少異なる場合があります。

セクション2 - 制御装置とその機能

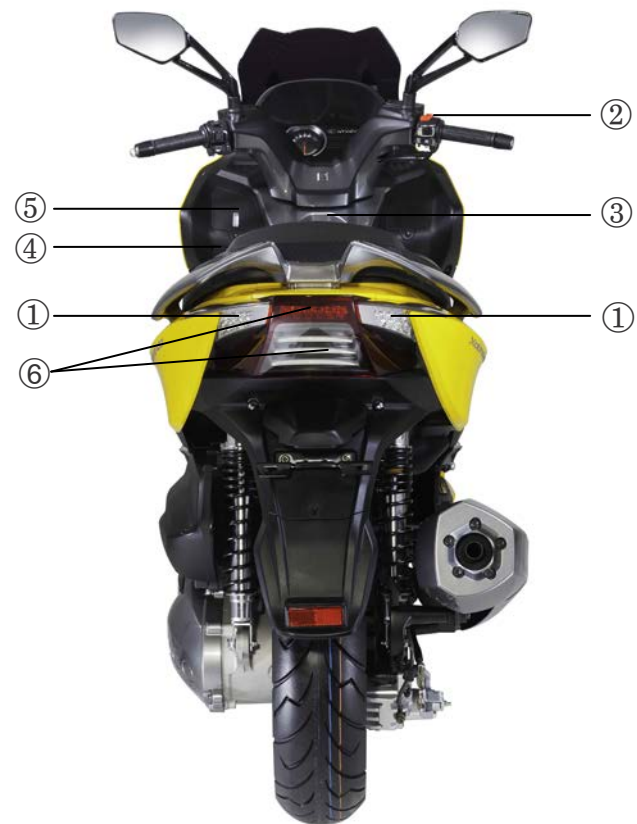
- ① フロントウィンカー
- ② ヘッドライト
- ③ ウィンドシールド
- ④ フロントブレーキレバー



■ 注記:本マニュアルの図がお持ちのスクーターの外観と多少異なる場合があります。

セクション2 - 制御装置とその機能

- ① リアウインカー
- ② 右ハンドルバースイッチ
- ③ イグニッションスイッチ
- ④ 出力電圧12V
- ⑤ 冷却水リザーバー
- ⑥ 位置ランプ




■ 注記: 本マニュアルの図がお持ちのスクーターの外観と多少異なる場合があります。

セクション2 - 制御装置とその機能

イグニッションスイッチ

イグニッションスイッチの操作方法と各機能について:


「」の位置:

すべての電気回路がオフになります。エンジンは始動・作動しません。

「」の位置:


イグニッション回路が「オン」になり、エンジンを始動できます。この位置にある時はイグニッションスイッチからキーを外せません。

「」の位置:







ハンドルをロックするには、ハンドルバーを完全に左に向け、キーを押し込んで「」の位置に回して外します。すべての電気回路がオフになります。



セクション2 - 制御装置とその機能

「」の位置:

シートのロック解除方法

1. イグニッションキーが「」の位置にある(エンジンは作動している)状態では、キーを押し込んで反時計回りに回して位置を「」から「」に変更します。
2. イグニッションキーが「」の位置にある(エンジンは作動していない)状態では、キーを反時計回りに回して位置を「」から「」に変更します。

シートの後部を引き上げて上に持ち上げます。

シートのロック方法

シートを下げて、同乗者セクションに押し下げ、フック①をシートロックにかけます。乗車前にシートが固定されていることを確認してください。

■注記: バッテリーの消耗を防ぐため、シートがロックされていることを確認してください。



セクション2 - 制御装置とその機能

安全シャッター

イグニッションスイッチの安全シャッターを開く方法:

イグニッションスイッチのカバーの上にあるSHUTボタン①を押すとシャッター②が閉じます。

イグニッションスイッチの安全シャッターを閉じる方法:

溝④がピンの方向に向くまで、特殊キー③を挿入します。

時計回りに回すと、安全シャッターが開きます。

キーには専用コードがあり、キーと共に提供されるタブに刻印されています。安全上の理由から、このコードはスクーターには刻印されておらず、車両の基本文書にも記録されていません。代用キーを入手する時にはこのコードが必要になるので、このオーナーズマニュアルの内部ページに該当欄にこの重要コードを記録しておいてください。




セクション2 - 制御装置とその機能

計器類

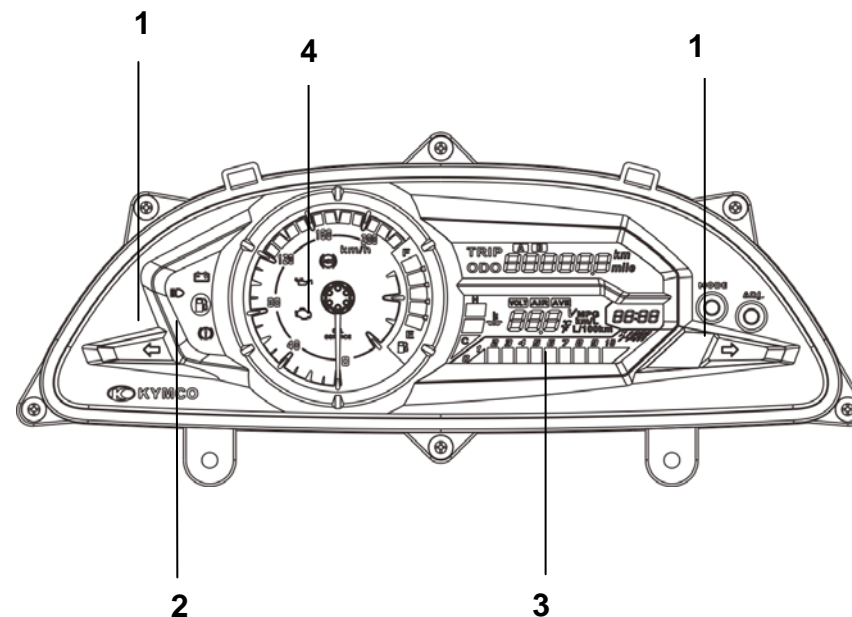
1. 方向指示器表示灯 (ウィンカーライト): いずれかのウィンカーを使用すると点滅します。
2. ハイビーム表示灯: このライトはヘッドライトのハイビームがオンになっている時に点灯します。
3. タコメーター: 分当たりの回転数 (RPM) でエンジン回転数を示します。キーを「オン」に切り替えると、スピードメーターの針は、電気回路をテストするために速度範囲全体に一度掃引した後、ゼロに戻ります。

⚠ WARNING

タコメーターのレッドゾーンでエンジンを動作させないでください。
レッドゾーン: 8200 RPM以上


4. エンジントラブル警告灯「」: 点滅している場合、障害が電気システムで検出されたことを示し、KYMCOディーラーによる即時検査が必要です。

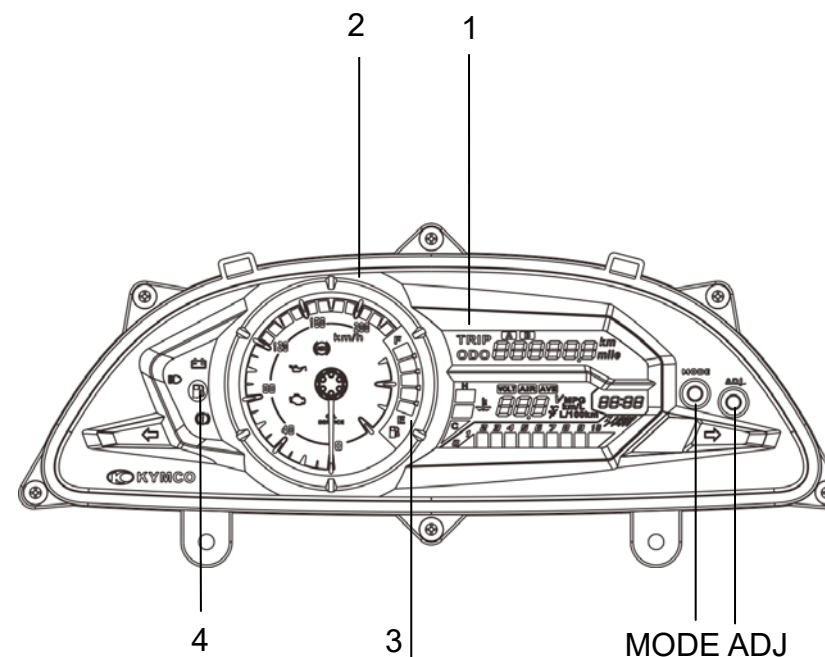
- 注記: エンジンが動作する前にキーを「オン」に切り替えると警告灯が一瞬点滅しますが、これは故障ではありません。



セクション2 - 制御装置とその機能


多機能表示


1. オドメーター（積算距離計）／トリップメーター（区間距離計）：
「MODE」ボタンを2秒間押して、km/hとm/sの間を切り替えます。
 - 「ADJ」ボタンを2秒間押すと、ODO、TRIP(A,B)、OIL、SERVICEのいずれかのモードが表示されます。
 - TRIPモードで「ADJ」ボタンと「MODE」ボタンを同時に2秒間押すと、数値が自動的にリセットされます。
2. スピードメーター：走行速度をkm/hまたはm/sで表示します。
3. 燃料計：燃料計は、LCD上の表示セグメントを介して利用可能なおおよその燃料供給を示します。燃料計の通常の動作範囲は、「Eセグメント」および「Fセグメント」の間です。「Eセグメント」または燃料タンクアイコンが点滅している場合、燃料レベルが低く、できるだけ早く燃料タンクに補充する必要があります。
4. 燃料レベル警告表示「」：燃料レベルが減少するにつれて、燃料計の表示セグメントが「E」（空）に向かって消えていきます。燃料レベルが「E」に近づくと、燃料レベル警告表示が点滅します。できるだけ早く燃料を補充してください。



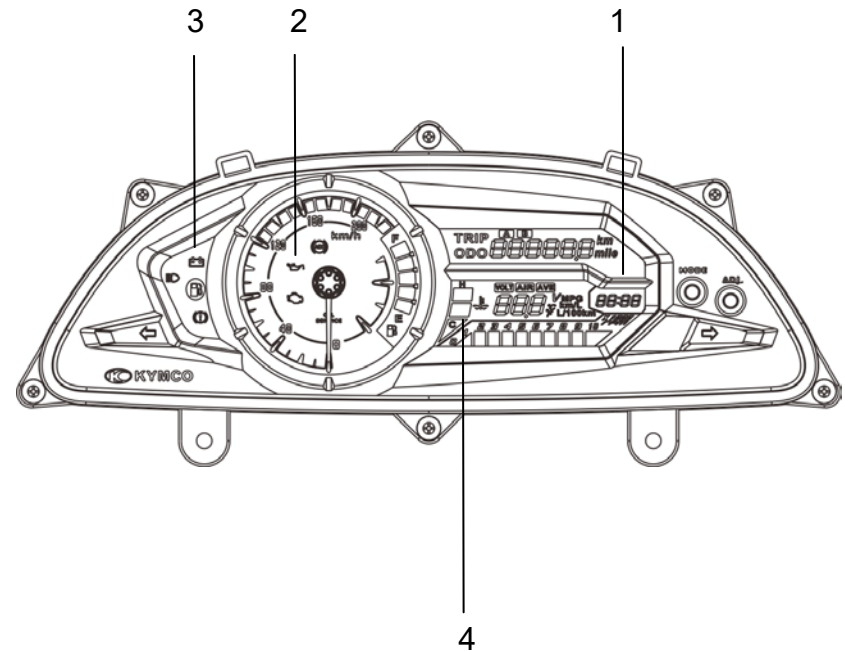
セクション2 - 制御装置とその機能

1. 時計

2. 油圧警告表示「」: エンジン動作中に油圧が通常運転圧を下回ると、この表示が点灯します。エンジンが作動する前にキーを「オン」位置に切り替えると、この表示が点灯します。エンジンが始動するとこの表示は消灯します(エンジン暖機時にアイドリング状態またはそれに近い状態であれば点滅することがあります)。エンジンが始動してもこの表示が完全に消えない場合は、すぐに最寄りのKYMCOディーラーにご相談ください。

3. バッテリー低電圧表示「」: エンジンの始動中にバッテリー電圧が11.25Vを下回った場合、この表示が点灯します。バッテリーが完全に充電されるまでは、エンジンを再始動できません。

4. 冷却水温度表示: イグニッションスイッチが「オン」であるとき、エンジンの冷却水温度を示します。冷却水温度は、天候およびエンジン負荷により変化します。上部セグメントおよび冷却水温度警告表示が点滅した場合は、スクーターを停止し、エンジンを冷却してください。

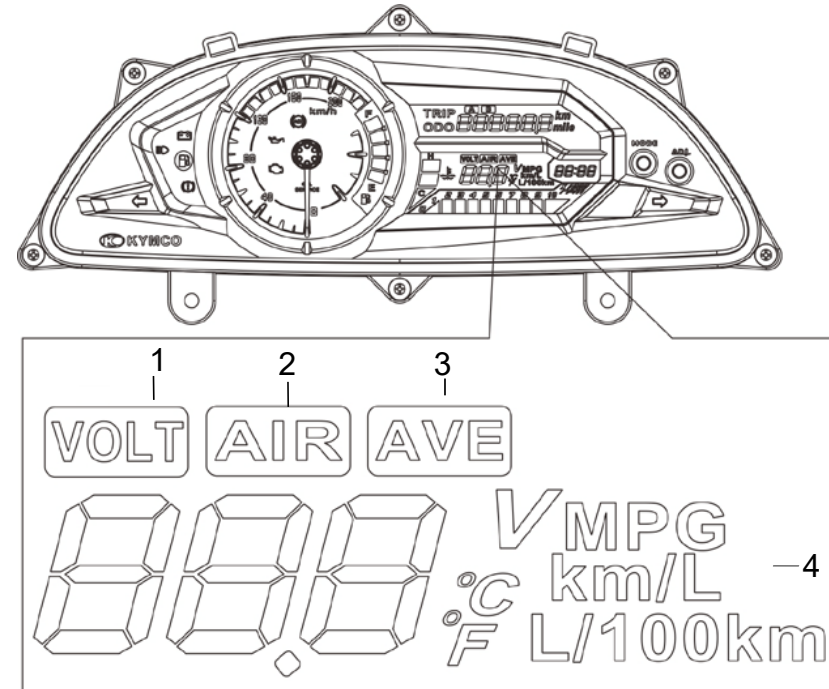


セクション2 - 制御装置とその機能

ADJボタンをクリックして、VOLT / AIR / AVE（平均燃料消費量） / -（瞬間燃料消費量）機能モードを切り替えます。

- 1.VOLTモード:このモードでは、数字はバッテリー電流電圧を表示します。
2. AIRモード:このモードでは、数字は現在の大気温度を表示します。ADJボタンとMODEボタンを同時に2秒以上押し続けて、摂氏と華氏の温度単位をシフトします。
- 3.AVEモード:MODEボタンをクリックしてTRIP Aモードに移行します。AVEモードでは、数字に平均燃料消費量が表示されます。
- 4.--（瞬間燃費モード）:このモードでは、数字は瞬間燃費を表示します

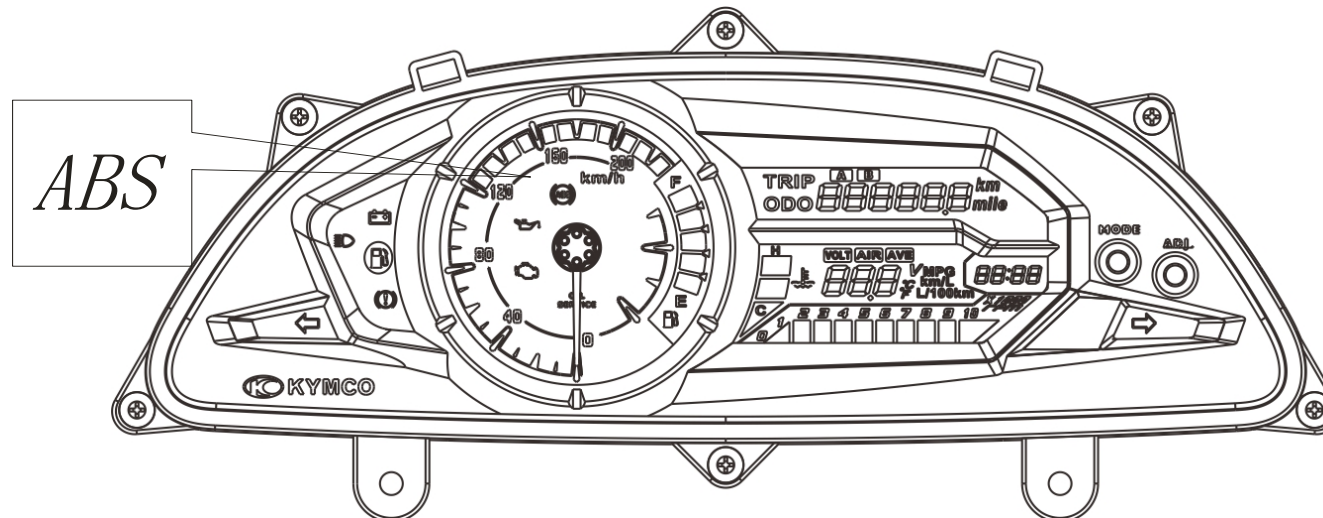
■注記:キーを「オン」に切り替えるとき、電気回路をテストするために、多機能表示のすべての表示セグメントが点灯し、消灯します。



セクション2 - 制御装置とその機能

多機能メーター

ABSインジケータライト@は、多機能メーターの左側に配置されています。このインジケータライトは、イグニッションスイッチがオンに切り替えられるときに点灯することにより、それ自体とABSシステムを自己チェックし、車両が走行を開始した直後にオフに切り替わります。



ABS の故障がシステムのマイクロプロセッサによって検出された場合は、ABS インジケータが点灯し、障害が修復されるまで点灯し続けます。

インジケータライトが点灯し、スクーターが動いた後でも点灯している場合、ABS システムが機能していないことを示しています。

ABS システムの障害があっても、従来のブレーキシステムは正常に機能します。

注記： ABS インジケータランプが障害を示している場合、修理のためにKYMCO 販売店にスクーターを持ち込んでください。修理を自分で行おうとしないでください。

セクション2 - 制御装置とその機能

KYMCO アンチロックブレーキシステム(ABS)の概要

ABS は、直進走行しながらブレーキが強かけられたとき、車輪のロックを防止するために設計されています。ABS は、自動的に制動力を断続的に印加し、解除することにより、制動力を制御し、車輪のロックを防止し、停止中に安定した操舵制御を可能にします。

ブレーキ制御機能は、従来の車両と同じです。ブレーキレバーが、フロントブレーキとリアブレーキに対して使用されます。

車輪のロックを防止することにより、ABS は停止中に安定性を提供しますが、次のような特徴があることに注意してください：

■ABS は不利な道路状況、誤判断またはブレーキの不適切な適用を補うことはできません。

ABS は、制動距離を短くするように設計されていません。緩い、不均一、または下り坂面では、ABS 付き車両の停止距離は、ABS なしの車両と同等若しくは長くなる場合があります。このような状況では、特別な注意を払ってください。

■ABS は直線走行における制動時の車輪のロックを防ぐことができますが、コーナリング中にブレーキによって引き起こされる車輪のスリップを制御することはできません。

■コーナーでは、両方のブレーキを弱くかけるか、まったくかけないことをお勧めします。コーナーに入る前に、速度を落としてください。

- ABS のマイクロプロセッサ(コンピュータ)は、車輪速度と車両速度を比較します。KYMCO による推奨されるものとは異なるサイズのタイヤは、車輪速度に影響を与える場合があります。その場合、制動距離を延長につながるマイクロプロセッサの混乱を引き起こす可能性があります。

WARNING

非推奨タイヤの使用は、ABS の誤動作の原因となり、制動距離が長くなる可能性があります。結果として、運転者が事故に遭う可能性があります。常にスクーターの推奨サイズのタイヤを使用してください。

注記：

- ABS が機能しているときは、ブレーキレバーで脈動を感じることがありますが、これは正常です。ブレーキは、正常に動作しています。
- ABS は、約 6MPH(毎時 10 キロ)以下の道路速度では機能しません。
- バッテリー電圧が非常に低い場合に ABS が機能しない、または電源中断の可能性があります。ABS インジケータライトは、そのような場合に点灯します。

セクション2 - 制御装置とその機能

デジタル時計

イグニッションが「オン」になっていると、時計には時間と分が表示されます。

時計の表示時間を手動で調整するには、以下の手順に従ってください。

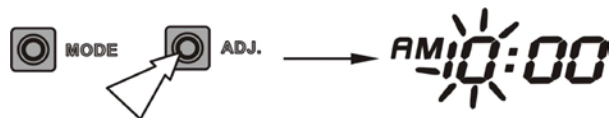
- 1.イグニッションスイッチを「オン」に切り替えます
- 2.ADJボタンを2秒以上長押しして、ODOモードを選択します。

■注記:デジタル時計の調整はODOモードでのみ可能です。時間を調整したい場合にはトリップメーターモードやオイル交換時期表示モードを選択しないでください。

- 3.「MODE」ボタンと「ADJ」ボタンを同時に2秒以上長押しします。「時間」の数字が点滅し始め、時計の表示時間が調整できるようになります。



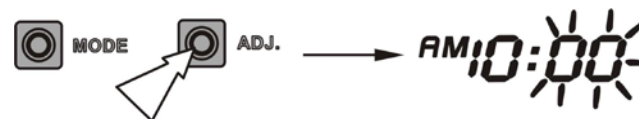
- 4.時間表示を設定するには、正しい「時間」が表示されるまでADJUSTボタンを押します。



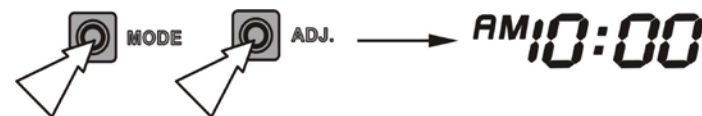
- 5.分表示を変更するには、「分」の数字が点滅し始めるまで「MODE」ボタンを押します。



- 6.分表示を設定するには、正しい「分」が表示されるまで「ADJ」ボタンを押します。



- 7.時計の調整を終えるには、「MODE」ボタンと「ADJ」ボタンを同時に押してください。表示の点滅が自動的に停止します。約10秒以内にどのボタンも押さなければ、調整はキャンセルされます。



セクション2 - 制御装置とその機能

右ハンドルバースイッチ（日本仕様を除く）

ヘッドライトスイッチ①「☀」の位置

ヘッドライトとテールライトを点灯します。

「☾☽」の位置

位置表示灯とテールライト（走行ランプ）を点灯します。

電気スターターボタン②「⚡」の位置

電気スターターボタンを押すとスターターモーターが作動します。

エンジン停止スイッチ③「⊗」の位置

イグニッション回路がオフになります。エンジンは始動・作動しません。
「○」の位置。

イグニッション回路がオンになり、エンジンを始動できます。

■注記:スターターモーターは、スターターボタンを押すと同時にブレーキレバーを引き寄せることで連動します。



セクション2 - 制御装置とその機能

ハザードスイッチ④「△」

このスイッチを「△」位置に切り替えることで、すべてのウィンカーを同時に点灯させ、他者に危険を知らせます。このスイッチを「オフ」に戻すことで、ハザード点滅をキャンセルします。

- 注記: いずれかのウィンカーが点滅している場合、ハザードスイッチは動作しません。ハザードスイッチは、イグニッションスイッチが「オフ」の場合でも動作します。

⚠ WARNING

危険な場所に駐車する場合、または他者に警告するための特別な必要性がある場合、ハザード点滅スイッチをオンに切り替えてください。ハザードスイッチをオンに切り替えると、自動的にリセットされませんので、使用後は、他者の困惑を避けるため、必ず「オフ」に切り替えてください。

⚠ CAUTION

バッテリーを消耗させる可能性がありますので、ハザード点滅を長時間オンのままにしないでください。



セクション2 - 制御装置とその機能

左ハンドルバースイッチ

ウインカースイッチ⑤

ウインカーを使用して、角を曲がる時や車線変更する時に他者にその意志を表示します。計器盤のウインカー灯が点滅して、運転者にこのスイッチが入っていることを知らせます。

「←」は「左折」用です。

「→」は「右折」用です。

ウインカーを解除するには、このスイッチが中央にきているときに押します。

クラクションボタン⑥

クラクションを鳴らすには、このクラクションボタンを押します。

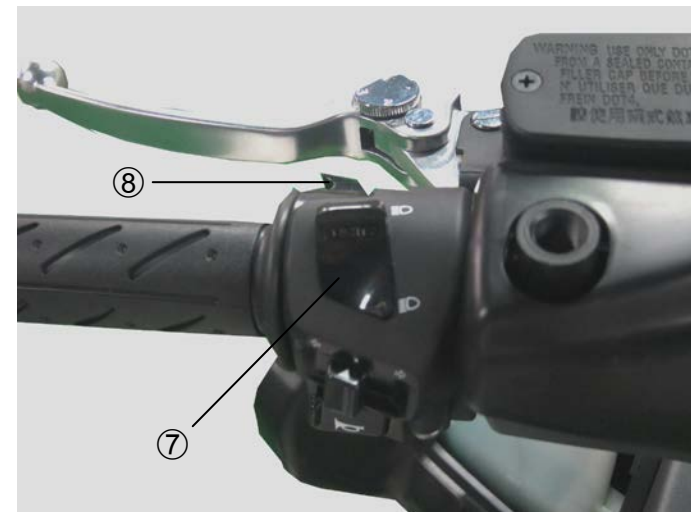
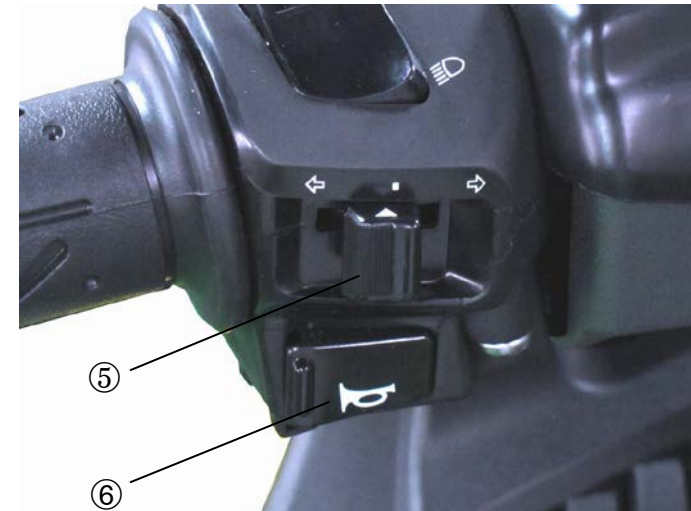
減光スイッチ⑦

スイッチの位置を「D」にすると、ヘッドライトのロービームがオンになります。

スイッチの位置を「D」にすると、ヘッドライトのハイビームがオンになって計器盤のハイビーム表示灯も点灯します。

パッシング灯ボタン⑧

追い越したい意思を他の車両に伝える時には、このボタンを使い、ヘッドライトのハイビームのオンとオフを素早く切り換えることで知らせます。



セクション2 - 制御装置とその機能

フロントブレーキレバー

フロントブレーキレバーは右ハンドルグリップ上に配置されています。フロントブレーキをかけるには、ハンドルグリップに向けて、このレバーを引きます。



リアブレーキレバー

リアブレーキレバーは左ハンドルグリップ上に配置されています。リアブレーキをかけるには、ハンドルグリップに向けて、このレバーを引きます。



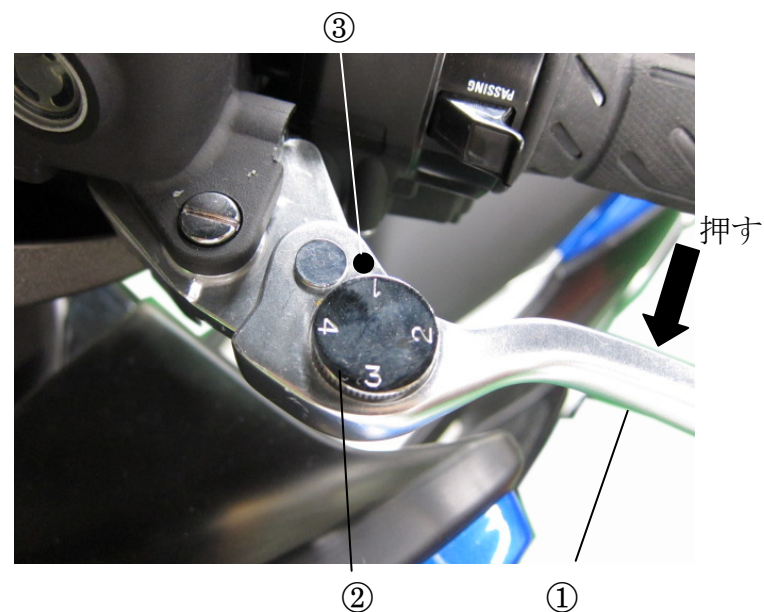
セクション2 - 制御装置とその機能

ブレーキレバーアジャスター

各ブレーキレバーにアジャスターがあります。リリースレバーの位置を運転者の手に合わせて調整できるように各アジャスターには4つの位置があります。

ハンドルバーグリップからレバーまでの距離を調整するには、レバー①を前向きに押し、アジャスターノブ②を回して、数字をレバーホルダー上の矢印マーク③に位置合わせします。

■注記:グリップからリリースレバーまでの距離は、数字4のときに最も近く、数字1のときに最も遠くなります。



セクション2 - 制御装置とその機能

燃料量の点検／補給

計器盤の燃料計が点滅し始めた場合には、できるだけ早く無鉛ガソリンを燃料タンクに補充してください。

燃料タンク注入口

以下の手順に従ってスクーターに燃料を補給してください。

1. 燃料キャップ保護カバー①を引きます。
2. キーを使って、キャップをロック解除します②。
3. キーを時計回りに回して、キャップをロック解除します。
4. ロックが解除されたら、燃料注入口からキャップを持ち上げます③。
5. 燃料注入口キャップを取り付けには、燃料注入口の所定の位置に押し付けます。
6. キーを反時計回りに回して、キャップを所定の位置にロックします。
7. キャップを取り外して、保護カバーを閉じます。

燃料の推奨事項

スパークプラグと排気部の破損を防ぐために、リサーチオクタン価が91以上の無鉛ガソリンを使用してください。補充を終えたら、必ずキャップをしっかりと閉めてください。



セクション2 - 制御装置とその機能

ヘルメットホルダー

ヘルメットホルダーを使用するには、シートを開き、ヘルメットのファスナーリングをホルダーにひっかけ、シートをしっかりと閉めます。

⚠ WARNING

ヘルメットホルダーの使用はスクーターの駐車時に限ります。ホルダーにヘルメットを掛けたまま走行しないでください。

センターコンパートメント

センターコンパートメントはシートの下にあります。コンパートメントにアクセスするには、「シート」(12ページ)を参照してください。

センターコンパートメントの重量制限:22ポンド(10kg)

⚠ WARNING

スクーターの操縦安定性が深刻な影響を受ける可能性がありますので、最大重量制限を超えないようにしてください。

センターコンパートメントは、エンジンからの熱で熱くなることがあります。このコンパートメント内の熱の影響を受けやすい食料または可燃性材料を保管しないでください。

コンパートメントに水が入る可能性がありますので、シートとセンターコンパートメントの結合部に圧縮水を直接かけないようにしてください。



セクション2 - 制御装置とその機能

センターコンパートメントLED

シートが開くと、センターコンパートメントLED①が自動的に2秒間点灯します。イグニッションスイッチの位置にかかわらず、シートが開いている間、点灯し続けます。

■注記:LED①は、手でセンサー③を覆うと再びオンになる場合があります。



③ ①

携帯電話用ソケット

電源ソケット②からキャップを取り外し、12V DC 携帯電話充電器をソケットに挿入します。計器盤の充電表示灯が点灯し、充電器がスクーターから電力の供給を受けていることを通知します。

ソケットの定格容量は、12V DC、ワット(1.25A) 以下です

携帯電話を再充電する場合は、ソケットキャップを取り外し、再取り付けしてください。



セクション2 - 制御装置とその機能

サスペンション

スクーターの各緩衝装置には、さまざまな荷重や乗り心地に対応するために5つのスプリングプレロードポジションがあります。

ピンスパナを使って後部緩衝スプリングプレロードを調整してください。ポジション1は軽い荷重でスムーズな路面状態に対応します。ポジション3～5ではスプリングプレロードが強化されており、スクーターに大きな荷重がかかる時に使用できるように後部サスペンションが固めになっています。いずれの緩衝装置も、同一のスプリングプレロードポジションに合わせて調整してください。

標準的なスプリングプレロードポジション:3

⚠ CAUTION

緩衝装置のプレロードポジションの調整は、常に一定の順序（1-2-3-4-5または 5-4-3-2-1）で行ってください。1から直接5へ、または5から直接1へと調整を行うと、緩衝装置が破損する可能性があります。



セクション2 - 制御装置とその機能

パーキングブレーキ

パーキングブレーキをかけるには

パーキングブレーキレバー ①を押し下げ、後輪をロックします。

■注記:乗車前に、後輪に抵抗がないよう、必ず、リアブレーキを解除してください。

パーキングブレーキを解除するには

レバーを軽く引いて、パーキングブレーキレバーを解除します。

⚠ WARNING

パーキングブレーキをかけたままでスクーターに乗車することは危険です。リアブレーキがオーバーヒートし、ブレーキ性能が失われます。乗車中にパーキングブレーキをかけると後輪がスリップし、制御不能を引き起こす恐れがあります。



セクション2 - 制御装置とその機能

サイドスタンド

スクーターを駐車する時にはサイドスタンドだけでは不十分ですが、サイドスタンドには重要な安全機能があります。この機能により、サイドスタンドが下りている状態でスクーターに乗ろうとするとイグニッションが遮断されます。以下の通り、サイドスタンドの点検を行ってください。



インターロック機能の確認

サイドスタンドのイグニッション遮断システムを確認します。


- 1.スクーターのセンタースタンドを掛けます。
- 2.サイドスタンドを上げてエンジンを始動します。
- 3.サイドスタンドを下げます。サイドスタンドを下げるとエンジンが停止するはずです。

■注記:サイドスタンドシステムが上記のように動作しない場合には、KYMCOディーラーにメンテナンスを依頼してください。

セクション3 - 操作

エンジンの始動

このページ以降で説明している適切な始動手順に常に従ってください。

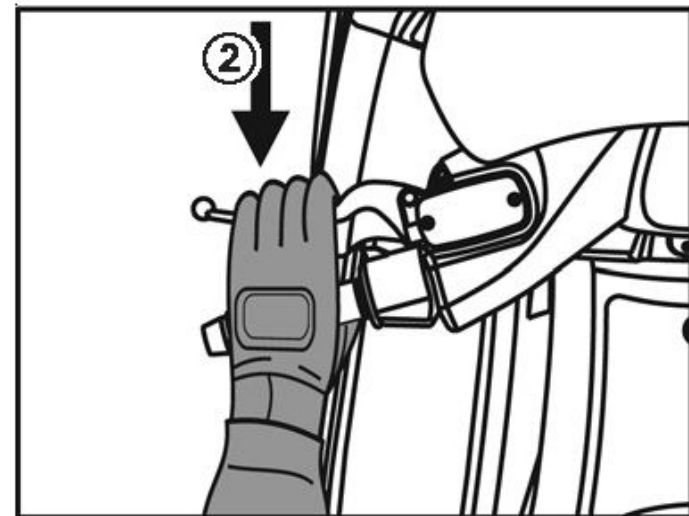
1. スクーターのセンタースタンドを掛けてサイドスタンドを上げます。
2. パーキングブレーキ①をかけることで、後輪をロックします。
3. イグニッションキーを差し込み、イグニッションスイッチを「」に回してオンに切り替えます。
4. 左(リア)ブレーキレバー②を引き寄せます。

■注記:電気スターターは左(リア)または右(フロント)のブレーキレバーを引き寄せている時しか機能しません。

WARNING

スクーターが始動すると、後輪が回転する恐れがあります。けがを防ぐため、後輪から体や衣服を離してください。

後輪が始動時に回転しないように、センタースタンドでパーキングブレーキを設定します。



セクション3 - 操作

5.スロットルが閉じている状態で、スターターボタンを押します。エンジンが始動したらすぐにスターターボタンを放します。

■注記:計器盤の油圧警告灯はエンジン始動後数秒以内に消灯する必要があります。警告灯が点灯したままの場合、直ちにエンジンを停止し、エンジンオイルのレベルを確認してください。

⚠ CAUTION

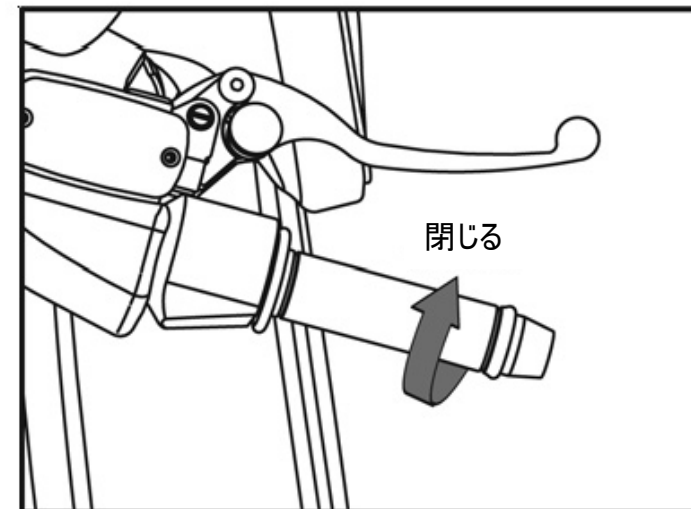
スクーターの排気システムの触媒コンバーターを保護するため、アイドリング時間が長くなりすぎないようにし、有鉛ガソリンを使用しないでください。

スターターモーターの破損を防ぐため、スターターモーターを1回に5秒以上作動させないでください。スクーターがすぐに始動しない場合は、ガソリン残量とバッテリーの状態を確認し、スターターモーターが冷えてからエンジンを再始動してください。

油圧が不十分な状態でスクーターのエンジンを作動させると、エンジンが致命的な損傷を受ける可能性があります。

6.エンジンの暖機中はスロットルを閉じたままにしておきます。

7.エンジンが完全に温まってから走行するようにしてください。



セクション3 - 操作

イグニッションカットオフ

Xcitingスクーターは、点灯した場合、自動的にエンジンと燃料ポンプを停止するように設計されています（角度検知センサーがイグニッションシステムを遮断します）。スクーターが点灯した場合、エンジンを再始動する前にこのセンサーをリセットするために、イグニッションスイッチをオフ位置に切り替え、その後オン位置に戻す必要があります。

乗車

⚠ CAUTION

スクーターに乗車、アイドリングまたは駐車時に乾いた草や葉などの可燃性材料が排気システムと接触しないようにしてください。

- 1.スクーターをセンタースタンドから動かす前に、必ず、スロットルを閉じ、パーキングブレーキをかけてください。

⚠ WARNING

スクーターをセンタースタンドから動かす時は、後輪をロックしなければなりません。そうしないと制御を失う恐れがあります。

- 2.スクーターの左側に立ち、前に押して、センタースタンドから動かします。
- 3.スクーターを安定させるため、少なくとも片方の足を地面において、左からスクーターにまたがります。
- 4.パーキングブレーキを解除することで、後輪をロック解除します。



- 5.走行する前に、ウインカーを使って方向を示し、車の流れに入ることが安全かどうか、状況を確認します。

セクション3 - 操作

⚠ WARNING

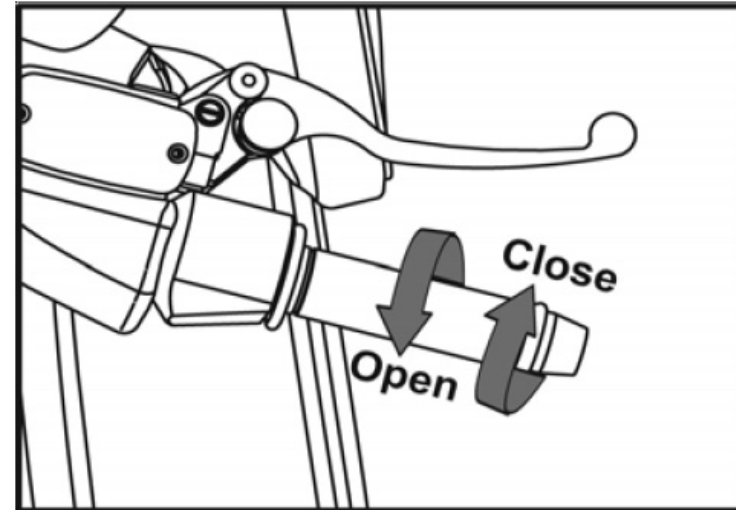
両手でハンドルバーをしっかりとつかみます。スクーターの制御を失う可能性がありますので、片手運転をしようとししないでください。

6. 加速するためにスロットルを徐々に開きます。スクーターが前に進みます。
7. 減速するには、スロットルを閉じます。
8. スクーターを減速する場合、スロットルとフロントブレーキおよびリアブレーキを調整することが重要です。フロントブレーキとリアブレーキの両方を一緒にかける必要があります。フロントブレーキまたはリアブレーキのみを独立して使用することで、停止性能が減少します。

⚠ WARNING

過度なブレーキは前後輪をロックし、スクーターの制御を低下させる恐れがあります。

9. コーナーや曲がり角に近づいた時は、スロットルを完全に閉じ、フロントブレーキとリアブレーキを同時にかけることで、スクーターを減速します。



セクション3 - 操作

9. 曲がり角を過ぎたら、スロットルを徐々に開いて、スクーターを加速します。
10. 急こう配を下る場合は、スロットルを完全に閉じ、両ブレーキをかけて、スクーターを減速します。

⚠ WARNING

ブレーキの連続的な使用は避けてください。オーバーヒートを引き起こし、ブレーキシステムの効率性が低下する恐れがあります。

11. 湿った面または緩い面を乗車する時は、特に注意を払ってください。

⚠ WARNING


湿度の高い条件または雨天時に乗車する時は、操作および停止する能力が低下します。

安全を確保するために:

- ブレーキをかける時、加速または方向を変える時は細心の注意を払ってください。
- 低速で走行し、十分な車間距離を維持してください。
- スクーターを可能な限り真っ直ぐに維持してください。
- 鉄道の線路、鉄板、マンホールカバー、および塗装ラインなどの滑りやすい路面上を走行する際は細心の注意を払ってください。

セクション3 – 操作

駐車

- 1.スクーターを停止した後、イグニッションスイッチを反時計回りに「」(オフ)位置に回して、キーを取り外します。
- 2.センタースタンドを使って、駐車中にスクーターを支えます。

CAUTION

必ず、スクーターをしっかりとした平らな地面に駐車して、転倒を避けてください。
斜面に駐車しなければならない場合は、上り坂にあなたのスクーターの正面を向け、センタースタンドの上に置きます。駐車する際、パーキングブレーキと組み合わせてサイドスタンドを使用することができます。

WARNING

排気管とマフラーは、運転中非常に高温になり、エンジンを停止させた後も、しばらくの間、深刻な火傷を負わせるほど十分に熱くなっています。

歩行者や子どもたちがマフラーに触れないような場所にスクーターを駐車してください。

スクーターを駐車時に乾いた草や葉などの可燃性材料が排気システムと接触しないようにしてください。

- 3.盗難を防ぐために、ハンドルをロックします(11ページを参照)。

セクション3 – 操作

慣らし運転に関する推奨事項

乗車の最初の1000マイル(1600km)が、スクーターの寿命にとって最も大切です。この期間の適切な慣らし運転は、新しいスクーターから最大の寿命と性能を確保するのに役立ちます。適切な慣らし運転により、加工面がお互いに磨き合いスムーズに嵌合ようになります。

スクーターの信頼性と性能は、慣らし運転期間中に実施された特別なケアと抑制に依存します。エンジン部品を過度の熱にさらさない方法でエンジンを動作させることが特に重要なのです。慣らし運転期間中は、以下のガイドラインが従う必要があります：

最大スロットル操作：

初期500マイル(800km)：.....1/2スロットル未満

1000マイル(1600km)まで：.....Less than 3/4 throttle

エンジン回転数を変化させる：

エンジン回転数を変化させる必要があり、長期間一定回転数で維持することは避けてください。これにより、圧力で部品に「負荷をかけ」、その後、負荷を外し、部品を冷却することができます。

これは、エンジンおよびトランスミッション構成部品の嵌合プロセスに役立ちます。この嵌合プロセスを確保するために慣らし運転中にこれらの構成部品にいくらかのストレスをかけることが重要です。しかし、スクーターの動力伝達系に過度の負荷をかけないようにしてください。

一定の低速を避ける：

一定の低速(軽負荷)でエンジンを動作させると、部分が磨かれ、適切に装着されない可能性があります。推奨されるスロットル操作を超えることなく、ギアを介してエンジンが自由に加速できるようにします。

最初の1600km(1000マイル)はフルスロットルの使用を避ける：

初期点検：

最初の最も重要な点検を遵守してください。600マイル(1000km)の初期点検は、スクーターが受ける最も重要な点検です。慣らし運転期間中に、すべてのエンジン部品は摩耗し、他のすべての部品が固定されるので、調整が必要になります。すべてのファスナーを締め付け、汚れたエンジンオイルを交換します。

■注記： 600マイル(1000km)の初期点検を完了することで、スクーターから最適な寿命と性能が保証されます。この走行距離に達した時点で、遅れることなく、この点検を実施してください。

セクション4 - メンテナンス

⚠ CAUTION

このオーナーズマニュアルのメンテナンススケジュールのセクションで概説される通り、1000km(600マイル)点検を実施する必要があります。メンテナンススケジュールセクションの注意と警告に特に注意を払ってください。

サービス技術者としての正式な訓練を受けておらず、KYMCO技術資料にアクセスできない場合、KYMCOディーラーによる初期点検を受けることを強く推奨します。

⚠ WARNING

タイヤの慣らし運転に失敗すると、タイヤがスリップする原因となる可能性があり、スクーターの制御の喪失につながる可能性があります。

新しいタイヤに乗車する際は、特に注意を払ってください。このオーナーズマニュアルに記載される通り、タイヤの適切な慣らし運転を行い、最初の100マイル(160km)は、激しい加速、コーナリング、ブレーキングは行わないでください。

新しいタイヤの慣らし運転

スクーターのエンジンと同様に新しいタイヤは、最大性能を保証するため適切な慣らし運転を必要とします。最大リーニング角を試す前に最初の100マイル(160km)の間に徐々にコーナリングリーニング角を増やして、トレッド面を摩耗させます。最初の100マイル(160km)は、激しい加速、コーナリング、ブレーキングは行わないでください。

セクション4 - メンテナンス

乗車前点検

安全のために、乗車時には毎回少し時間を取ってスクーターの周辺を見て回り、コンディションを確認することが非常に重要です。何か問題があれば、すぐに対処するか、または最寄りのKYMCOディーラーに解決してもらう必要があります。

WARNING

スクーターのメンテナンスが不適切である場合や、乗車前に発覚した問題が解決されていない場合は、重傷や死亡を伴う故障が発生する可能性があります。

乗車時には毎回事前に乗車前点検を行い、問題があれば解決しておきましょう。

- 1.エンジンオイルの残量:必要であればエンジンオイルを補給します(45ページ)。漏出がないか確認します。
- 2.ガソリンの残量:必要に応じて燃料タンクに補給します(26ページ)。漏出がないか確認します。
- 3.フロントブレーキとリヤブレーキ:動作を確認し、ブレーキ液の漏出がないことを確認します(53ページ)。

- 4.タイヤ:状態と空気圧を確認します(58ページ)。
- 5.スロットル(アクセル):スムーズに動作するかどうか、ハンドルがどの位置にあっても完全に閉じることができるかどうかを確認します(49ページ)。
- 6.ライト類とクラクション:ヘッドライト、テール/ブレーキライト、ウインカー、各表示、クラクションが適切に機能するかを確認します。

ハンドル(ステアリング):状態とスムーズに動作するかを確認します。

セクション4 - メンテナンス

メンテナンスの重要性

安全に効率的に問題なく走行するためには、スクーターの適切なメンテナンスが不可欠です。また、大気汚染を軽減しつつ最高の燃費を実現するためにも有効です。

スクーターを適切に手入れするために、本オーナーズマニュアルには以降のページにメンテナンススケジュールを掲載しており、スクーターのメンテナンスを適切な間隔で実施できます。

この手順は、スクーターがその設計目的でのみ使用されるという想定に基づいています。継続的に高速運転している場合や、異常に濡れたり汚れたりする状況で運転している場合には、メンテナンススケジュールよりも高い頻度でメンテナンスを行なう必要があります。個人的なニーズや用途については、KYMCOディーラーにご相談ください。

■注記:点検とメンテナンスに関しては必ず、本オーナーズマニュアルに記載されている推奨事項とスケジュールに従ってください。

WARNING

スクーターが横倒しになったり衝突に巻き込まれたりした場合には、ご自身で修理できる状態であっても必ず、KYMCOディーラーにすべての主要部品の点検を依頼してください。
スクーターのメンテナンスが不適切である場合や、乗車前に発覚した問題が解決されていない場合は、重傷や死亡を伴う故障が発生する可能性があります。

WARNING

スクーターのメンテナンスを行なう際にエンジンの始動が必要になることがあります。屋内やガレージ内でスクーターのエンジンを作動させると危険です。排気ガスには一酸化炭素が含まれており、これは無色・無臭なので、死亡や重傷をもたらす可能性があります。エンジンの作動は、十分に換気されている場所(屋外がベスト)でのみ行ってください。

セクション4 - メンテナンス

メンテナンススケジュール

メンテナンス予定の各時期に乗車前点検(32ページを参照)を行ってください。このメンテナンス間隔は、オドメーターの読み取り値または月数の、いずれか早い方で判断してください。

メンテナンススケジュール表(43と44ページを参照):

I:必要に応じて、点検、掃除、調整、注油、交換を行なってください。

C:掃除 R:交換 A:調整 L:潤滑 D:診断

次の2ページに掲載されているメンテナンススケジュールでは、**XCTING 400i**スクーターの動作を最高の状態に保つために必要なメンテナンスを規定しています。メンテナンス作業は、適切なトレーニングを受けており、技能のある技術者が、KYMCOの基準と仕様に従って実施すべきです。これらの要件を全て満たしているのはKYMCOディーラーです。

* お客様が適切なツール、サービスデータ、技術的な資格をお持ちでない限り、これらの作業はKYMCOディーラーにお任せください。

* * 安全の観点から、これらの項目はKYMCOディーラーが実施することをお勧めします。KYMCOでは、定期メンテナンスの完了後には毎回、KYMCOディーラーによるロードテストを受けることをお勧めしています。

メンテナンススケジュールの注記(42と43ページを参照):

1. オドメーターの読み取り値が高い場合。ここで確立した頻度を繰り返してください。
2. スクーターをいつもよりも湿った領域または埃の多い領域で乗車した場合は、より頻繁に点検を行ってください。
3. 雨天またはフルスロットルで乗車する場合は、より頻繁に点検を行ってください。
4. 交換後は、12,000マイル(20,000km)毎に点検してください。
5. 1年毎または6,000マイル(10,000km)毎のいずれは早い方で交換してください。交換には、機械的なスキルが必要です。
6. 2年毎または指定されたオドメーター間隔毎のいずれは早い方で交換してください。交換には、機械的なスキルが必要です。
7. 2年毎に交換してください。交換には、機械的なスキルが必要です。

セクション4 - メンテナンス

項目		頻度	いずれか 早い方 ↓	オドメーター値										参照ペ ージ
				X 1000km	1	5	10	15	20	25	30	35	40	
				X 1000mi	0.6	3	6	9	12	15	18	22	24	
注記		月	1	6	12	18	24	30	36	42	46			
*	エアクリーナー		注記2		R	R	R	R	R	R	R	R	49	
*	Vベルトケースのエアフィルターの エレメント				C	C	C	C	C	C	C	C	49	
	スパークプラグ				I	R	I	R	I	R	I	R	50	
*	スロットル動作性				I	I	I	I	I	I	I	I	49	
*	バルブ間隙				I	A	I	A	I	A	I	A		
*	燃料経路					I		I		I		I		
	クランクケース通気管		注記3		C	C	C	C	C	C	C	C	60	
*	エンジンオイル				R	R	R	R	R	R	R	R	45	
*	エンジンオイル用スクリーン				C	R	C	R	C	R	C	R		
*	エンジンオイル用フィルター				R	R	R	R	R	R	R	R		
*	エンジンのアイドル回転数					D		D		D		D		
*	トランスミッション液		注記5		R		R		R		R		48	
*	駆動ベルト		注記4			I	I	I	R	I	I	I	R	

セクション4 - メンテナンス

項目	頻度	いずれか 早い方 ↓	オドメーター値									参照 ページ	
			X 1000km	1	5	10	15	20	25	30	35		40
			X 1000mi	0.6	3	6	9	12	15	18	22		24
注記	月	1	6	12	18	24	30	36	42	46			
**	クラッチシューの摩耗												
	ブレーキ液	注記7			R		R		R		R	53	
	ブレーキパッドの摩耗											54	
	ブレーキシステム												
*	ブレーキライトスイッチ												
**	ステアリング軸受												
*	ヘッドライトの照準												
*	ナット、ボルト、ファスナー												
**	ホイール/タイヤ											57	
**	冷却水	注記6			R		R		R		R	51	
**	インジェクター			D	C	D	C	D	C	D	C		
**	CVTシステム				R		R		R		R		

セクション4 - メンテナンス

エンジンオイル

エンジンオイルの推奨事項

スクーターのより長い耐用年数を確保するために、プレミアム品質の4サイクルエンジンオイルを使用してください。API規格の区分がSJ以上のオイルのみを使用してください。

エンジンオイルの粘度:SAE 5W-50

これらの粘度のオイルを手に入れない場合は、以下のチャートに従って代替りのエンジンオイルを選択してください。

エンジンオイルの容量:1.5 L

エンジンオイルの残量の点検

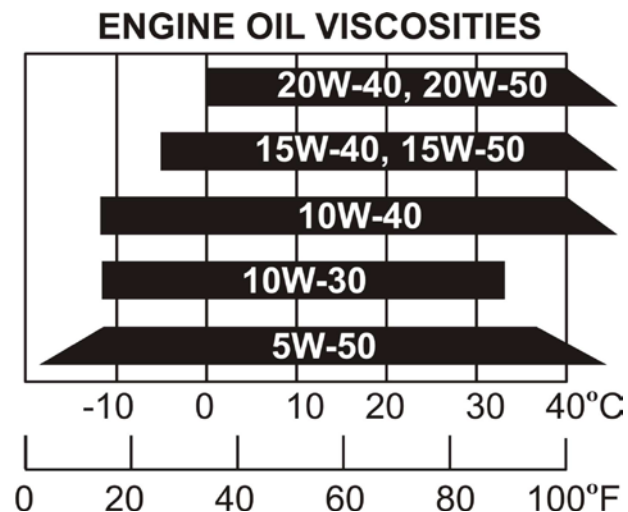
1日の最初の走行前にエンジンオイルの残量を確認してください。油面レベルが必ず、オイル注入口キャップ／オイルゲージ③の印の上限①から下限②までの間になるように維持します。

1.エンジンを始動して数分間アイドルします。

⚠ CAUTION

油圧が不十分な状態でエンジンを作動させると、エンジンが致命的な損傷を受ける可能性があります。

2.エンジンを停止し、平らな地面の上でセンタースタンドを掛けます。



セクション4 - メンテナンス

3. 数分後、オイル注入口キャップ／オイルゲージを取り外し、オイル注入口キャップ／オイルゲージをねじ込まずに再度挿入します。オイル注入口キャップ／オイルゲージを取り出します。油面レベルは必ず、オイル注入口キャップ／オイルゲージの上限マークから下限マークまでの間にあるように維持します。
4. 必要であれば、オイル残量がオイルゲージの上限マークに達するまで所定のオイルを補給します。入れ過ぎないようにしてください。
5. オイル注入口キャップ／オイルゲージを再度取り付けます③。オイル漏れがないか確認します。

⚠ WARNING

エンジンとその関連部品は非常に熱くなります。オイル残量の点検は、やけどをしないように注意して実施してください。エンジンと排気システムに対して作業する場合は、必要であればエンジンと排気システムを冷ましてから作業を行ってください。

エンジンオイルの交換

エンジンオイルの品質はエンジンの寿命に影響を与える主な要因です。メンテナンススケジュールに従って、スクーターのエンジンオイルを交換してください。

■注記: エンジンオイルを交換する際には、オイルが素早く完全に排出されるようにスクーターのセンタースタンドを立てて、通常の動作温度でエンジンのエンジンオイルを入れ替えてください。

1. 右クランクケースカバーからオイル注入口キャップ／オイルゲージ③を取り外します。
2. 左クランクケースの下に適切な容器(ドレインパン)を置きます。



③

セクション4 - メンテナンス

3. オイル排出プラグ④をクランクケースから取り外してオイルを排出します。
4. 排出プラグを元に戻して、所定のトルクまで締め付けます。
5. 下記の量までエンジンにオイルを補給し、オイル注入口キャップ／オイルゲージを元通りに取り付けます。

エンジンオイルの容量: 1.5 L

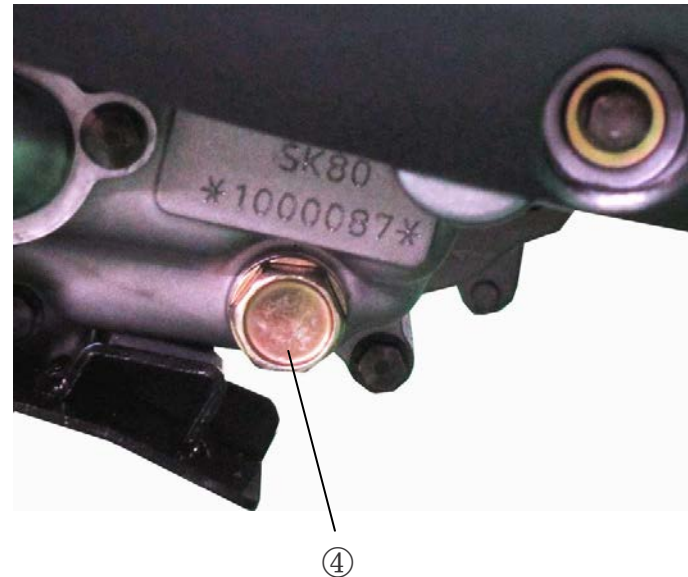
エンジンオイルの交換容量: 1.3 L

■注記: 量は排出後のオイルのみです。

6. エンジンを始動して2～3分間アイドルします。
7. エンジンを停止し、平らな地面の上でセンタースタンドを掛けてスクーターを停車させて、オイルゲージでオイル量を確認します。
8. 必要に応じてオイル量を調整します（油面レベルがオイルゲージの上限マークに達するように）。オイルゲージを元に戻してオイル漏れがないか確認します。

⚠ CAUTION

油圧が不十分な状態でエンジンを作動させると、エンジンが致命的な損傷を受ける可能性があります。



セクション4 - メンテナンス

トランスミッション液の交換

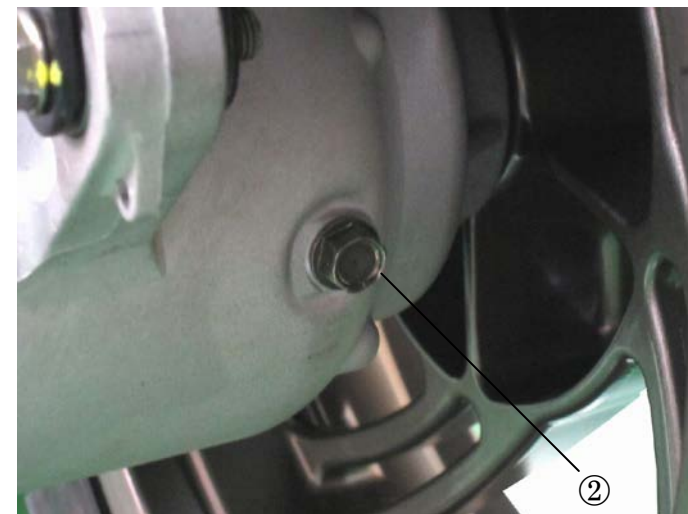
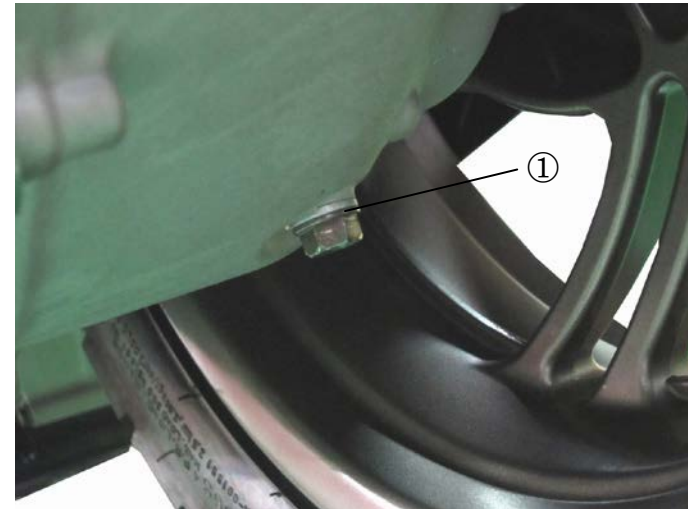
1. スクーターのセンタースタンドを掛けます。
2. トランスミッション液排出部のボルト①を取り外します。
3. トランスミッション液注入部のボルト②を取り外し、リアホイールをゆっくりと回して液を排出します。
4. 推奨トランスミッション液を、下記の容量までトランスミッションに注入します。

トランスミッション液のタイプ:SAE 90

トランスミッション液の容量:0.23 L

トランスミッション液の交換容量:0.20 L

5. トランスミッション液注入部のボルトを元に戻して、所定のトルクまで締め付けます。



セクション4 - メンテナンス

エアクリーナーフィルターのエレメント

エアクリーナーフィルターのエレメント①のメンテナンス作業は、お客様がこの作業を行なうための適切なツール、サービスデータ、技術的な資格をお持ちでない限り、KYMCOディーラーにお任せください。

極端に濡れている場所や汚れている場所を走行する場合には、高い頻度でエレメントのメンテナンスを行なってください。

⚠ CAUTION

不適切なKYMCO製エアクリーナーエレメント、またはKYMCO製と同等の品質ではないKYMCO製以外のエアクリーナーエレメントを使用すると、エンジンの摩耗が進んだり性能に問題が発生したりする場合があります。

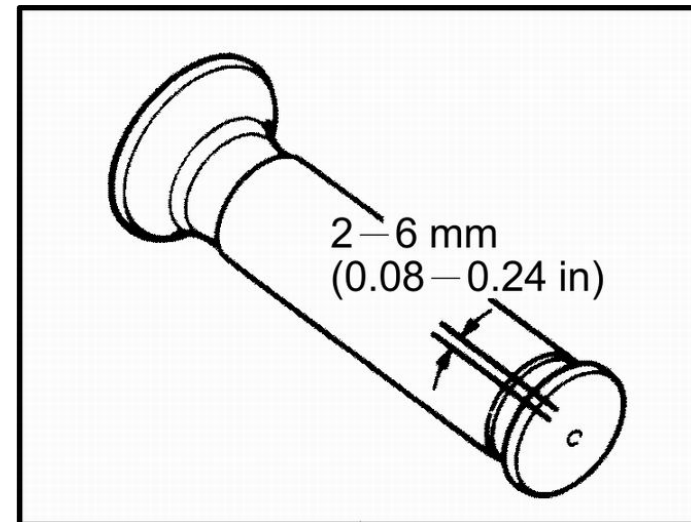
スロットル動作性

- 1.乗車時には毎回事前に、両方のスロットルグリップが全開から全閉までスムーズに回転することを確認します。
- 2.スロットルグリップフランジでのスロットルグリップの遊びを測定します（右図を参照）。

スロットルの遊び:0.08～0.24インチ(2.0～6.0mm)



①



セクション4 - メンテナンス

スパークプラグ

小さなワイヤーブラシまたはスパークプラグのクリーニング機を使って、スパークプラグの炭素堆積物を取り除きます。掃除が終わったら(または新しいスパークプラグを取り付ける時)、スパークプラグ間隙用厚さゲージを使用して、スパークプラグの間隙を所定の限界値になるまで再調整します。スパークプラグは定期的に交換してください。

炭素堆積物を取り除く際には必ず、取り外したスパークプラグ先端の磁器部の色を確認してください。この色から、標準スパークプラグが走行タイプに合っているかどうか分かります。通常の使用状態であれば、スパークプラグの磁器部は明るい茶色か黄褐色になっています。

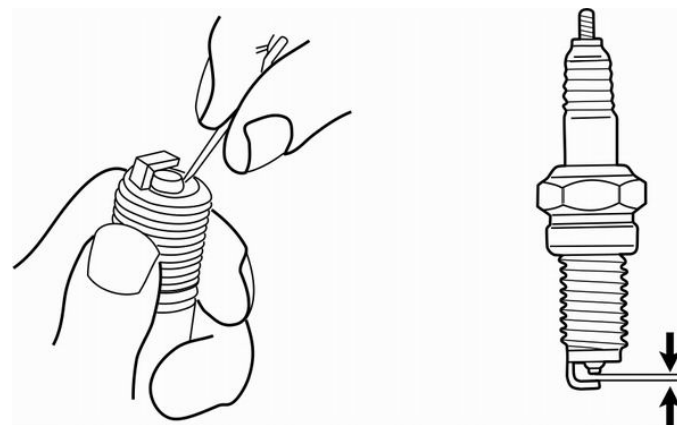
スパークプラグの磁器部が非常に白い場合や光沢があるように見える場合、そのプラグは動作時に過剰に熱くなっています。そのような場合には、標準スパークプラグを熱領域野低いもの(通常は値が大きくなります。代替スパークプラグを選択する時にはKYMCOディーラーにご相談ください)と交換すべきです。

推奨スパークプラグ:CR7E(NGK)

⚠ CAUTION

不適切なスパークプラグは、エンジンに対して正しく取り付けられることができなったり、熱範囲が不適切である場合があります。その結果、保証が適用されない致命的な破損をエンジンにもたらす可能性があります。熱範囲が不適切なスパークプラグは、エンジンの重大な破損を招きくため決して使用しないでください。

スパークプラグの間隔:0.028インチ(0.7mm)



セクション4 - メンテナンス

冷却水の残量の点検

レッグシールドの下に予備タンクがあります。エンジンが通常の動作温度である時に、センタースタンドを立てた状態で、予備タンクのふたから冷却水の残量を確認します。

冷却水の液面レベルが下限マークよりも下回っている場合は、ふたのねじを取り除き、予備タンクのふたを取り外してから、液面が上限マークに達するまで冷却水を補給します。

⚠ WARNING

冷却水は予備タンクにのみ補給してください。ラジエーターキャップを取り外して冷却水を補給しないようにしてください。ラジエーター内の冷却水は加圧されており非常に熱くなりますので、ひどいやけどを負う可能性があります。



予備タンクのふた

ふたのねじ



予備タンクのキャップ



セクション4 - メンテナンス

冷却水の交換

お客様が適切なツール、サービスデータへのアクセス権、技術的な資格をお持ちでない限り、スクーターの冷却水の交換はKYMCOディーラーにお任せください。

- 注記:冷却水は常に予備タンクに補給してください。ラジエーターキャップを取り外して冷却水を補給しないようにしてください。

▲ WARNING

エンジンが熱い時にラジエーターキャップを取り外すと冷却水が飛び散ってやけどする恐れがあります。必ずエンジンとラジエーターが冷えてからラジエーターのキャップを取り外すようにしてください。

冷却水の推奨事項

冷却システムとエンジンの冷却水について、適切なタイプを選択して適量を維持するようにスクーターの点検を行なうことは、お客様の責任です。凍結、オーバーヒート、腐食を防止するには、冷却水の状態を良好に維持し、不凍剤と蒸留水の比率を適切に維持する必要があります。冷却水には、アルミ製エンジン用に特別に作られた腐食防止剤を含む高品質のエチレングリコール不凍剤のみを使用するように手配してください(不凍剤の容器の表示をご覧ください)。

スクーターの冷却システムのために、不凍剤と蒸留水の比率を50:50にする必要があります。この冷却溶液は大半の差動作温度に対応でき、しっかりと腐食を保護できます。

▲ CAUTION

不凍液の一部として使用できるのは低ミネラル飲料水または蒸留水のみです。ミネラルや塩の含有量が高い水は、アルミ製エンジンには危険です。ケイ酸塩阻害剤を含む冷却水を使用すると、水ポンプの封止が早く磨耗したり、ラジエーターの経路が詰まったりする恐れがあります。水道水を使用するとエンジンが破損する恐れがあります。

氷点下になるような環境でスクーターを使用している場合は、エンジンの凍結も防止できるように、KYMCOディーラーで高濃度の不凍剤を注入してください。ただし、その場合の不凍剤の濃度は蒸留水に対して60%を超えないようにしてください。

暖かい時期には、不凍剤を標準濃度のものに戻して下さい。濃度が40:60(不凍剤濃度40%)未満の場合は、十分な腐食保護が施されません。

セクション4 - メンテナンス

ブレーキ液

ブレーキ液の残量の点検

センタースタンドを立てた状態で、前部と後部のブレーキ液の残量を確認します。

液面が下限マークよりも上にあれば問題ありません。液面が下限マーク「L」に達している、またはそれよりも下になっている場合には、ブレーキパッドの摩耗状態を確認してください。

■注記:その他の点検事項 - ブレーキ液の漏出がないか確認してください。ホースと付属部品に劣化や亀裂がないか確認してください。

⚠ WARNING

ブレーキパッドが磨耗している場合はすぐに交換してください。パッドが磨耗していない場合は、ブレーキ液が漏れていないかブレーキシステムを点検する必要があります。ブレーキが完全に作動する状態でなければスクーターには乗車しないでください。

ブレーキ液のタイプ: DOT 4



セクション4 - メンテナンス

ブレーキパッド

ブレーキパッドの摩耗の点検

ブレーキパッドの厚さを点検して、ブレーキが適切に機能するのに十分な材料がそろっていることを確認します。

- 1.フロントブレーキパッドの摩耗表示溝が目視で確認できない状態であれば、ブレーキパッドが磨耗しており交換が必要となっているサインです。
- 2.リアブレーキパッドの摩耗表示溝が目視で確認できない状態であれば、ブレーキパッドが磨耗しており交換が必要となっているサインです。

⚠ WARNING

走行中にブレーキレバーを握り続ける(引き寄せた状態)と、ブレーキが早く磨耗します。ブレーキシステムの点検についてはKYMCOディーラーにご相談ください。



セクション4 - メンテナンス

バッテリー

バッテリーは、シートの後ろに位置しています。

このモデルには、メンテナンスフリータイプのバッテリーが装備されています。

電解液を確認する、あるいは蒸留水を追加する必要はありません。しかし、バッテリーリード線の接続を確認する必要があり、必要に応じて、締め付けます。

WARNING

重度の火傷の原因となる硫酸を含んでいるため、電解液は有毒で危険です。皮膚、目または衣服への接触を避け、バッテリーの近くで作業するときは、必ず、自身の目を保護してください。接触した場合には、以下の応急処置を行ってください。

- 外部: 多量の水で洗い流します。
 - 内部: 大量の水または牛乳を飲み、すぐに医師に連絡します。
 - 目: 15分間水で洗い流し、直ちに医師の診察を受けてください。
- バッテリーは爆発性の水素ガスを生成します。したがって、バッテリーに火花、炎、タバコなどを近づけないでください。密閉空間で充電する際は、十分に換気してください。
子供の手の届かないところにこれとすべてのバッテリーを保管してください。

バッテリーを充電するには

放電したように見える場合は、できるだけ早く、KYMCOディーラーにバッテリー充電を依頼してください。スクーターにオプションの電気付属品が装備されている場合、バッテリーはより迅速に放電する傾向があることに留意してください。

■注記: メンテナンスフリータイプのバッテリーを充電するには、特別な(定電圧)バッテリー充電器が必要です。従来のバッテリー充電器を使用すると、バッテリーを損傷します。定電圧バッテリー充電器を利用できない場合は、KYMCOディーラーにバッテリー充電を依頼してください。

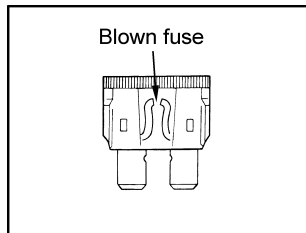
バッテリーを保管するには

1. スクーターを1ヶ月以上使用しない場合は、バッテリーを取り外し、それを完全に充電し、その後、涼しく乾燥した場所に置きます。**通知: バッテリーを取り外すときは、必ず、キーを「オフ」に切り替え、正極リード線を取り外す前に負極リード線を取り外してください。**
 2. バッテリーを2ヶ月以上保管する場合は、少なくとも1ヶ月に1度は確認し、必要に応じて、完全に充電してください。
 3. 取り付ける前にバッテリーを完全に充電してください。
 4. 取り付け後は、バッテリーリード線がバッテリー端子に適切に接続されていることを確認してください。
- 注記: 常にバッテリーを充電した状態に維持してください。バッテリーを放電した状態で保管すると、バッテリーが恒久的に損傷する可能性があります。

セクション4 - メンテナンス

ヒューズ

ヒューズの故障が頻発する場合は、電気系統でショートまたはオーバーロードが発生しています。



■注記:電気系統の診断と修理についてはKYMCOディーラーにご相談ください。

⚠ WARNING

格付けか指定のものではないヒューズは絶対に使用しないでください。

電気系統の著しい破損や火災が発生し、照明類やエンジン出力が危険な状態まで失われる場合があります。

ヒューズ一覧(Xciting 400i)

15A (WINKER, FR/RR STOP, HORN, METER, STARTER, POSITION, PHONE)
10A (IGNITION, IGN COIL, FUEL PUMP, ANGLE DETECTOR SENSOR)
10A (FAN MOTOR)
30A (CHARGING)
15A (HEAD LIGHT, CLOCK)

ヒューズ一覧(Xciting 400i ABS)

15A (WINKER, FR/RR STOP, HORN, METER, STARTER, POSITION, PHONE)
15A (IGNITION, IGN COIL, FUEL PUMP, ANGLE DETECTOR SENSOR, FAN MOTOR)
30A (CHARGING)
40A (ABS MOTOR)
15A (HEAD LIGHT, CLOCK)
25A (ABS ECU)

ヒューズボックス(ヒューズ交換)

- 1.ヒューズボックスは、バッテリーボックスのバッテリーの前面に配置されています。
- 2.シートを開きます。
- 3.バッテリーカバーを開きます。
- 4.ヒューズボックスカバーを開きます。



- 5.障害が発生したヒューズを引き出し、新しいヒューズを取り付けます。スペアヒューズはバッテリーリテナーに位置しています。
- 6.ヒューズボックスカバーとシートを閉じます。

セクション4 - メンテナンス

タイヤ

WARNING

これらの警告に従わない場合には、タイヤ不良が原因で事故を招く恐れがあります。スクーターのタイヤはスクーターと路面の重要な連結部です。運転者と同乗者の安全はスクーターのタイヤの状態に左右されます。

以下の指示内容に従ってください。

- 乗車前には毎回、タイヤの状態と空気圧を確認して空気圧を調整してください。
- スクーターの過重量を避けてください。
- タイヤが所定の限界まで磨耗している場合、またはタイヤに切り傷や亀裂などの損傷が見つかった場合には交換してください。
- タイヤは必ず、本オーナーズマニュアルに記載されている適切なサイズとタイプのものを使用してください。
- タイヤを取り付けた時にはホイールのバランスを調整してください。
- オーナーズマニュアルのこのセクションを熟読してください。

タイヤのならし運転を行なわないと、タイヤがスリップしたり、タイヤをコントロールできなくなったりする可能性があります。

新しいタイヤでの走行時はグリップが制限されますので特に注意が必要です。本マニュアルの慣らし運転に関する推奨事項に従って、タイヤの適切なならしを行ってください。最初の100マイル(160km)は、激しい加速、コーナリング、ブレーキングは行わないでください。

- 注記:定期メンテナンススケジュールに記載されている頻度で、タイヤの空気圧とタイヤの溝の状態を確認してください。安全とタイヤの寿命を最大限に確保するためには、タイヤの空気圧を予定よりも頻繁に点検すべきです。

タイヤの空気圧

タイヤの空気圧が不十分な場合は、タイヤの摩耗を加速させるだけでなく、スクーターの安定性も影響を受けます。タイヤの空気圧が不足しているとスムーズなコーナリングが困難になり、空気圧が高過ぎるとタイヤの地面との接触量が少なくなってスリップや制御不能を引き起こす恐れがあります。スクーターのタイヤの空気圧が常に所定の範囲内にあることを確認してください。

- 注記:タイヤの空気圧の調整はタイヤが冷えてから行ってください。

フロントタイヤ(運転者のみ):29.0 PSI(2.0 kgf/cm²)

リアタイヤ(運転者のみ):32.0 PSI(2.25 kgf/cm²)

フロントタイヤ(運転者 & 同乗者):29.0 PSI(2.0 kgf/cm²)

リアタイヤ(運転者 & 同乗者):32.0 PSI(2.25 kgf/cm²)

セクション4 - メンテナンス

タイヤトレッド状態

タイヤの状態とタイプは、スクーターの性能に影響を与えます。タイヤの傷または亀裂は、タイヤの故障につながる可能性があり、スクーターの制御不能につながる可能性があります。また、タイヤの摩耗は、スクーターのハンドリング特性を変化させる、タイヤのプロファイルに影響します。

スクーターに乗る前は毎日のタイヤの状態を確認してください。

亀裂や傷などの損傷の視覚的な証拠が見られる場合、または、トレッド深さがフロントタイヤで**0.06インチ(1.6mm)**、リアタイヤで**0.08インチ(2.0mm)**未満である場合、タイヤを交換してください。

■注記: タイヤに成型された摩耗バーが路面に接触する前にこれらの摩耗制限に達することになります。目視検査のみに依存せず、トレッドの深さを測定してください。

スクーターのタイヤを交換するときは、以下に記載されているサイズのタイヤと交換してください。異なるサイズのタイヤを使用すると、スクーターの取り扱いに悪影響を与え、スクーターの制御能力に影響を与える可能性があります。

	フロント	リア
サイズ:	120/70-15	150/70-14
タイプ:	チューブレス	チューブレス

■注記: パンクを修理するか、タイヤを交換した後は、ホイールバランスを確認してください。適切なホイールバランスは、可変ホイール-道路接触を避けるため、また、不均一なタイヤ摩耗を回避するために重要です。

WARNING

タイヤの不適切な修理、取り付け、バランス調整は、スクーターの制御を失い、タイヤの寿命を短くする原因になります。

■適切な工具と経験が要求されるので、修理、交換およびバランス調整を実施する場合は、KYMCOディーラーまたは資格のあるタイヤ専門店で依頼してください。

■必ず各タイヤの側面上に矢印で示す回転方向に応じてタイヤを取り付けてください。

セクション4 - メンテナンス

ウインドシールドの掃除

多量の水を使用し、柔らかい布やスポンジでウインドシールドを掃除してください。(ウインドシールドに洗剤または化学洗剤を使用しないでください。)柔らかく清潔な布で拭き取ってください。

ウインドシールドの掃除する場合は、ひっかき傷やその他の損傷を避けるために、水および柔らかい布やスポンジのみを使用してください。

汚れたウインドシールドの場合は、スポンジと大量の水で薄めた中性洗剤を使用します。必ず、すべての洗剤を洗い流してください。(洗剤の残留物により、ウインドシールドの割れが発生することがあります。)

傷を取り除くことができず、それらが明確な視野を妨げる場合は、ウインドシールドを交換してください。

バッテリー電解液、ブレーキ液または他の酸性化学物質がウインドシールドおよびスクリーンガーニッシュに付着しないようにしてください。これにより、プラスチックが破損します。

⚠ CAUTION

- 有機溶剤(例:ガス、シンナーなど)で拭かないでください。
- ウインドシールドを掃除する場合は、中性石鹼を使用してください。



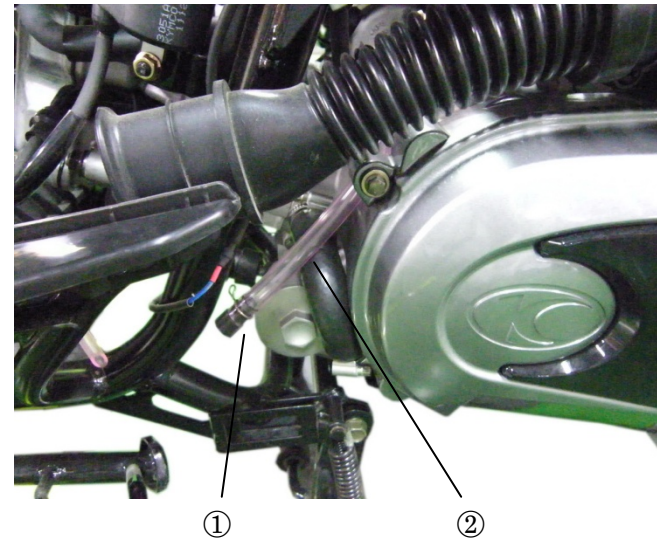
セクション4 - メンテナンス

クランクケース通気管の排水

スクーターは、エアクリーナーで凝縮した水とオイルを排出するために排出管が装備されています。

透明な排出管に液体が蓄積した場合は①、プラグ②を取り外し、適切な容器に液体を排出してください。排出後は、プラグを再取り付けしてください。

■注記:雨天に乗車した場合、フルスロットルで操作することが多い場合、スクーターを洗浄した場合、または、転倒した場合は、クランクケース通気管をより頻繁に排出する必要があります。環境的に適切な方法でこの残留物を処分してください。



セクション4 - メンテナンス

保管に関するガイド

冬など長期間保管する場合は、スクーターの不使用による劣化効果を低減するために特定ステップを行う必要があります。可能な場合は、保管する前に必要な定期メンテナンスまたは修理を行い、保管を終了する際、スクーターが良好な状態で乗車できるようにしてください。

保管

1. エンジンオイルとフィルターを交換します。
2. 冷却システムに40%:60%の不凍剤が充填されていることを確認します。
3. キャブレターを排出し(装備されている場合)、市販のハンドサイフォンまたは同等の方法を使用して、承認されたガソリン容器に燃料タンクを空にします。エアロゾル防錆オイルをタンク内部にスプレーします。燃料タンクの燃料充填キャップを閉めます

WARNING

ガソリンは非常に強い引火性と爆発性を有します。燃料を取り扱う際、重篤な火傷を負う恐れがあります。エンジンを停止し、熱、火花、火気を近づけないでください。屋外でスクーターに燃料を補給し、こぼれた場合は直ちに拭き取ります。

4. シリンダーに錆びないようにするために、次の手順を実行します。スパークプラグからスパークプラグキャップを外し、キャップをスパークプラグから離れた位置に配置するよう、プラスチック製部品に固定するためにテープまたは糸を使用します。エンジンからスパークプラグを取り外し、安全で乾燥した場所に保管します。スパークプラグをスパークプラグキャップに接続しないようにしてください。各シリンダーにスプーン一杯の清潔なエンジンオイル(15~20cc)を注ぎ、スパークプラグの穴を布で覆います。エンジンを数回回転して、オイルを分散させます。スパークプラグとスパークプラグキャップを再取り付けします。
5. バッテリーを取り外します。氷点下の気温や直射日光から保護された領域に格納します。月に1度バッテリーをゆっくり充電します(メンテナンスフリータイプのバッテリーで使用するために設計された高品質な充電器を使用します)。
6. スクーターを洗浄し、乾燥させます。塗装面にワックスをかけます。クロムまたはアルミ部品を防錆オイルでコーティングします。
7. 推奨される圧力でタイヤを膨らませます。タイヤを地面から離すため、スクーターをブロックの上に置きます。
8. スクーターをカバーします(プラスチックまたは他のコーティングされた材料を使用しないでください)。そして、毎日の温度変化を最小限に抑え、過剰な湿気のない、非加熱領域に格納します。太陽の紫外線は、本体や他のコンポーネントに損傷を与える可能性がありますので、直射日光の当たる場所にスクーターを保管しないでください。

セクション4 - メンテナンス

保管の終了

- 1.スクーターのカバーを外し、掃除します。
- 2.保管の開始から1ヶ月以上経過している場合は、エンジンオイルを交換してください。
- 3.必要に応じて、バッテリーを充電します(メンテナンスフリータイプのバッテリーで使用するために設計された高品質な充電器を使用します)。バッテリーを取り付けます。
- 4.燃料タンクから余分なエアロゾル防錆油を排出します。新鮮なガソリンを燃料タンクに充填します。
- 5.すべての乗車前点検を実施します。交通から離れた安全な領域で低速でテスト乗車を行います。

メンテナンス記録

日付	走行距離	実施した点検および注記

メンテナンス記録

日付	走行距離	実施した点検および注記

メンテナンス記録

日付	走行距離	実施した点検および注記

セクション5 – 仕様 – XCITING 400i

寸法

全長.....	86.8インチ(2205mm)
全幅.....	32.3インチ(820mm)
全高.....	50.6インチ(1285mm)
ホイールベース.....	61.8インチ(1570mm)

容量

エンジンオイル.....	1.5L
トランスミッションオイル.....	0.23 L
燃料タンク.....	12.5L
正味重量.....	424.6ポンド(193kg)

電気系

イグニッションのタイプ.....	インダクティブ式イグニッションコイル
イグニッションのタイミング.....	ECU制御
バッテリー.....	12V12AH
ヘッドライト.....	12V 35/35W×2
テールライト.....	12V 1.1W LED
ブレーキライト.....	12V 3.6W LED
ウインカー(フロント/リア).....	12V 2W/2W
ヒューズ.....	30A/15A/10A

エンジン

タイプ.....	4サイクルSOHC
バルブトレイン.....	4バルブ
排気量.....	399.6 cc
ボアとストローク.....	3.31インチ×2.83インチ(84×72mm)
圧縮比.....	10.8:1
最大馬力のエンジン.....	36ps/7500rpm
最大トルクのエンジン.....	37.7N-m/6250rpm
スパークプラグ.....	NGK CR7E
アイドル回転数.....	1420±100 RPM
冷却システム.....	水冷式
始動システム.....	電気スターター
トランスミッション.....	自動CVT

シャーシ

フロントタイヤのサイズ.....	120/70-15
リアタイヤのサイズ.....	150/70-14
ブレーキ(フロント).....	デュアルディスク
ブレーキ(リア).....	シングルディスク

セクション5 – 仕様 – XCITING 400i ABS

寸法

全長.....	86.8インチ(2205mm)
全幅.....	32.3インチ(820mm)
全高.....	50.6インチ(1285mm)
ホイールベース.....	61.8インチ(1570mm)

容量

エンジンオイル.....	1.5L
トランスミッションオイル.....	0.23 L
燃料タンク.....	12.5L
正味重量.....	424.6ポンド(193kg)

電気系

イグニッションのタイプ.....	インダクティブ式イグニッションコイル
イグニッションのタイミング.....	ECU制御
バッテリー.....	12V12AH
ヘッドライト.....	12V 35/35W×2
テールライト.....	12V 1.1W LED
ブレーキライト.....	12V 3.6W LED
ウinker(フロント/リア).....	12V 2W/2W
ヒューズ.....	40A/30A/25A/15A

エンジン

タイプ.....	4サイクルSOHC
バルブトレイン.....	4バルブ
排気量.....	399.6 cc
ボアとストローク.....	3.31インチ×2.83インチ(84×72mm)
圧縮比.....	10.8:1
最大馬力のエンジン.....	36ps/7500rpm
最大トルクのエンジン.....	37.7N-m/6250rpm
スパークプラグ.....	NGK CR7E
アイドル回転数.....	1420±100 RPM
冷却システム.....	水冷式
始動システム.....	電気スターター
トランスミッション.....	自動CVT

シャーシ

フロントタイヤのサイズ.....	120/70-15
リアタイヤのサイズ.....	150/70-14
ブレーキ(フロント).....	ABS
ブレーキ(リア).....	ABS

排気の制御

クランクケース排気制御システム

お持ちの XCITING 400i エンジンには密閉型クランクケースシステムが装備されています。ブローバイガスは吸気装置を経由してから燃焼室に戻りますので、大気中に解放されることはありません。

排気の排出制御システム

お持ちの XCITING 400i から排出された排気の制御はエンジン設計、出荷前設定の燃料通路、点火設定、及び排気システムなどの要素によって行われています。本システムにはキャタライザーも含まれています。

騒音制御装置

お持ちの XCITING 400i のエンジンの吸気と排気システムの設計は連邦、州及び地方の騒音規制を基準としています。エンジン、吸気や排気部品の改造や変更を行うと、お持ちの車の騒音基準に影響与えることがあります。

絶対に KYMCO が設計した部品を改造したり、変更したりしないでください。改造や変更の行為はお持ちの XCITING 400i の排気と騒音の排出基準を変えることにつながります。

二輪車を廃棄する場合は？

お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談下さい。

廃棄二輪車取扱店とは(社)全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されている廃棄二輪車取扱店です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口であり、店頭「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。

● リサイクル料金とは？

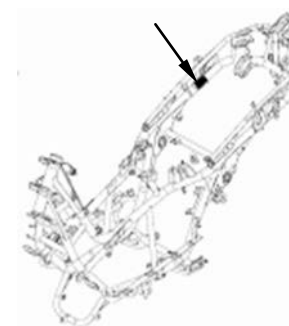
廃棄二輪車を適正な処理を行い、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車はリサイクル費用がメーカー希望小売価格に含まれておりますので、リサイクル料金は発生しません。ただし、運搬及び収集費用は含まれておりませんので、お客様から廃棄二輪車取扱店、および指定引取所まで運搬及び収集費用はお客様負担になります。

● 二輪車リサイクルマークの取扱い

お車を廃棄する際、二輪車リサイクルマークが必要となります。マークは車体から剥がさないで下さい。紛失、破損による再発行、部品販売の取扱いはございません。



廃棄二輪車取扱店の証



リサイクルマーク貼付位

KWANG YANG MOTOR CO.,LTD.
NO.35 Wan Hsing Street, San Min District
Kaohsiung, Taiwan, Republic of China
電話:886-7-3822526
FAX :886-7-3950021

KWANG YANG Motor Co., Ltd. 発行
初版 2016 年 5 月
無断複写・転載を禁じます。KWANG YANG Motor Co., Ltd.の
書面による許可のない
複製または不正使用は
明確に禁止されています。
T300-SK80AB-A0